

第6学年 国語科学習指導案

令和2年7月16日(木) 第5校時

1 単元名・教材名

筆者の主張や意図をとらえ、自分の考えをまとめ、発表しよう
「笑うから楽しい／時計の時間と心の時間／主張と事例」

2 児童の実態と本単元の意図

(1) 児童について

本学級の児童は、素直で真面目に学習に取り組む児童が多い。どの授業にも前向きに取り組むことができている。一方で、自分の考えに対して自信をもち、人前で発表することができる児童は少なく、授業では決まった児童が手を挙げ発言する傾向がある。

本単元を実施するにあたり、児童の実態を把握するためにアンケート調査を実施した。

調査日 令和2年 月 日 調査人数 名

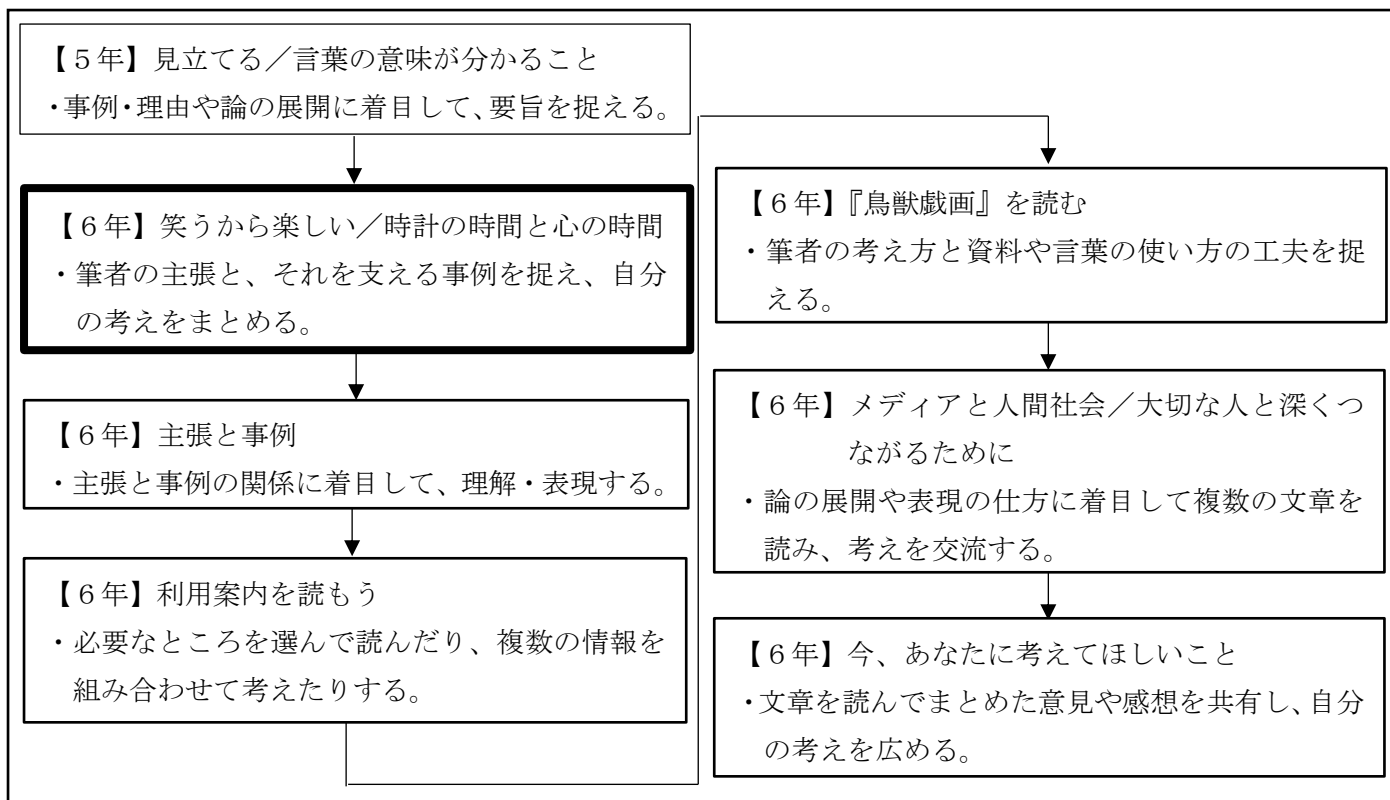
1 国語の学習は好きですか。									
好き	名	まあまあ好き	名	あまり好きでない	名	嫌い	名		
2 国語の学習で好きなことは何ですか。(複数回答可)									
文を書く	%	文を読む	%	発表する	%	発表を聞く	%	ない	%
3 国語の学習で嫌い(苦手)なことは何ですか。									
文を書く	%	文を読む	%	発表する	%	発表を聞く	%	ない	%
4 いつもより時間が早く感じるのはどんなときですか。									
<ul style="list-style-type: none"> ・楽しいことをしているとき ・1日の中で好きな教科がたくさんあるとき ・集中しているとき ・作文を書いているとき 									
5 いつもより時間が遅く感じるのはどんなときですか。									
<ul style="list-style-type: none"> ・楽しくないとき ・1日の中で苦手な教科がたくさんあるとき ・自分が発表しているとき ・難しいと思うことに取り組んでいるとき 									

アンケートの結果、%の児童が国語に対して肯定的な感情をもっていることが分かった。思考力、判断力、表現力等につながる項目において、友達の発表することを聞くことは好きである一方、自分の意見を発表することに苦手意識をもつ児童が多くいることが分かった。

(2) 教材について

本単元は、見開きで文章全体が見える練習教材「笑うから楽しい」と、やや文章が長い本教材「時計の時間と心の時間」の2教材で構成された説明的な文章の単元である。「笑うから楽しい」は、人は楽しいときに笑うという通念を覆す内容の文章であり、「時計の時間と心の時間」は、時計が表す時間と体感する時間の違いや両者の関連が述べられている文章である。体と心の関係、客観と主観、時間など、目に見えないものについて、改めて考える契機になると考えられる教材である。

【学習の系統性】



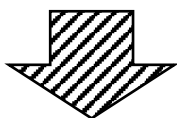
(3) 指導について

本単元では、「説明的な文章の筆者の主張や意図を捉え、それに関する自分の考えを発表する」という単元を貫く学習活動を確認し、練習教材「笑うから楽しい」と本教材「時計の時間と心の時間」を読み進めていく。主張が「初め」と「終わり」にあり、「中」に主張を支える事例が示されているという2教材に共通した構造について、自身の体験を振り返らせながら理解することができるようにしたい。

また、主張とそれを支える事例との関係に着目して読み、事例の効果や並び方といったことを基に筆者の意図を考えていく。そして、筆者の主張に共感したり、疑問に思ったりしたことなどをもとに自分の考えをまとめ、友達のを共感・納得、疑問に感じた点に注意して聞き合い、感想を交流する。友達と交流する中で、様々な考え方や発想、そして論の構成など、多様な視点や表現に触れることで、自分の考えを広げたり深めたりすることのよさを味わわせ、充実した学習活動にしていきたい。

埼玉県学力・学習状況調査を生かした指導改善の工夫

令和元年度埼玉県学力・学習状況調査の学習方略・非認知能力の結果を分析してみると、自分でしっかりと考えずに友達を頼ってしまう児童が多数いることや、より自分の理解度を深めるような学習活動が苦手な傾向にあると考えられる。また、国語の学力レベルの結果を分析してみると、学力レベルが広範囲にわたっており、学力差が大きいことがわかった。



分析結果を生かし、本単元では…

自力解決までの流れをスムーズにし、自力解決の時間を確保することで、自分の考えがもてるようにする。

話合いの場を意図的に設け、相手を意識して説明することで理解を深められるようにする。

学力レベルの結果からグルーピングを工夫することにより、効果的に学力を伸ばしていく。



本単元での指導を通して…

学力差のある児童間では、話合いの時に学力層の上位の児童は相手を意識して説明をすることでより深い理解をすることができ、学力層の下位の児童は説明を聞いて解き方を学ぶことで問題が解けるようになる。これらの活動を続けていき、しっかりと自分の考えをもてるようになることで、自信をもって話合いに参加できるようになり、主体的に学習に取り組めるようになる。

3 研究主題との関わり

(1) 研究テーマ

国語科を中心とした思考力・判断力・表現力を育成する指導法の工夫
～基礎・基本を確実に身に付け、伝え合う力を高める活動を通して～

(2) 本単元で身に付けさせたい基礎・基本

- 原因と結果など情報と情報との関係について読むことができる。
- 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えることができる。
- ・目的に応じて、論の進め方について考えることができる。
- ・筆者の主張に対する自分の考えを、根拠を基にまとめることができる。

(3) 研究の仮説に対する具体的な手立て

仮説：文章を正確に読み取り、根拠をつけて話したり書いたりできれば、基礎・基本が身に付き、思考力、判断力、表現力が高まるであろう。

【手立て】

○教材・導入の工夫

- ・単元の学習の流れと前時までの学習内容を掲示し、学習の振り返りが行えるようにする。

- ・取り上げる文章の内容の親しみやすさを生かし、心と体のつながりや時間感覚について、体験を通じて深く理解する機会をとる。

○読む力を育成するために

- ・「笑うから楽しい／時計の時間と心の時間」の筆者の主張やそれを支える事例や効果に着目し、サイドライン等を引いて読み取るようにする。
- ・「国語ステップ1・2・3」を用いて、児童の実態把握に努め、適切な支援を行うようにする。

○伝え合う力を育成するために

- ・ペアやグループでの交流の場を意図的に設定し、自分と相手の考えや感じ方を比較しながら聞くことを意識させる。
- ・声の大きさや抑揚など、相手に自分の考えが伝わるように話すよう意識させる。

○書く力を育成するために

- ・マス目付きノートやワークシートを活用し、読み取ったことや自分の考えを整理できるようにする。
- ・毎時間、授業の振り返りを自分の言葉でノートに書く活動を行う。
- ・筆者の主張に対する自分の考えを書く際に、文の型を掲示する。

4 単元の目標

- (1) 原因や結果など情報と情報との関係について理解することができる。 〈知識・技能〉(2)ア
- (2) 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。 〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)ウ
- (3) 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。 〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)オ
- (4) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとしている。 〈学びに向かう力、人間性等〉

5 単元で取り上げる言語活動

論説文を読んで、複数の情報を比較したり関係付けたりしながら、分かったことや考えたことを文章にまとめ、発表し合う。(関連：言語活動例ア)

本単元を貫く言語活動として、「筆者の主張に対する自分の考えをまとめて発表し合うこと」を位置付けた。児童は、主張とそれを支える事例の関係に着目しながら読み、内容と自分の経験・知識を関係付けて自身の考えをまとめ、発表し合っていく。また、教材文を読むとともに、時間や脳の働きの特性について書かれている本を取り上げながら並行読書を推奨していく。

			○話し手の考えとの比較	・主張と事例との関係を捉え、自分の経験と重ねながら考えをまとめているか確認する。
第三次	7・8	○考えを発表して互いに感想を伝え合い、学習を振り返る。 ○「主張と事例」を読み、主張と事例の関係の捉え方について、理解を深める。	○情報と情報との関係付けの仕方 ○図などによる語句と語句との関係の表し方 ○話の内容が明確になるような書き方、話し方 ○話し手の考えとの比較 ○自分の考えの再構築	【知識・技能①】 ワークシート、ノート、発言 ・主張と事例など情報と情報との関係について理解している。 【主体的に学習に取り組む態度①】 発表、観察 ・進んで主張と事例の関係を捉え、学習課題に沿って自分の考えを発表しようとしている。

8 本時の学習指導（本時5／8時）

（1）目標

- 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。 〈思考力、判断力、表現力等〉C（1）ウ

（2）評価規準

- 読むことにおいて、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。 【思考・判断・表現】

（3）本時の具体的な手立て

	△（国語ステップ1）	○（国語ステップ2）	◎（国語ステップ3）
判断状況	筆者の挙げた事例の意図を考えるとできない。	筆者の挙げた事例の意図を考えるとできる。	筆者の挙げた事例の意図から、事例の並び方の工夫に気づき、説明することができる。
指導支援	色分けした資料を提示し、事例がどんな視点から説明されているかを見つけるよう助言する。	4つの事例を説明するそれぞれの視点から、筆者の意図を考えていくよう助言する。	

(4) 展開

過程	学 習 活 動	学 習 内 容	指導上の留意点 (・) 評価 (◎○△) 手立て (→)	時間
つかむ	1 すらすら音読を行う。	○音読の仕方	・声の大きさや抑揚、速さや間の取り方を意識させる。	2
	2 既習の学習を振り返る。	○前時までの学習内容の想起	・「心の時間」の特性について、4つの事例を確かめることで、本時の課題にスムーズに入ることができるようにする。	3
	3 学習課題をつくる。	○課題づくり	筆者はなぜ複数の事例を挙げているのだろうか。	2
考える	4 学習の見通しをもち、個の読みを行う。 ・学習の進め方を確認し、どのようにして説得力を高めようとしているのか、それぞれ筆者が挙げている事例の意図を考える。 ※「国語ステップの記入」	○学習の進め方	・学習の進め方を確認することで、見通しをもって学習を進められるようにする。 ・自分が納得できる事例にはどのような意図があるかを考えるようにする。 ・事例の種類から、筆者の挙げた事例の意図を考えられるようにする。 ・「国語ステップ1・2・3」を活用し、児童の実態を把握し、適切な声掛けを行う。	1 4
伝える	5 思考を深める。 (1) グループで話し合う。 ・自分の意見を、根拠を基に話す。 ・友達の考えを自分の考えと比較しながら聞く。 (2) 全体で発表する。	○事実と感想、意見などとの関係 ○論の進め方 ・自分たちにとって身近な事例を挙げること ・実験という科学的な方法をグラフや図表を用いて分かりやすくすること ・読み手に実験をさせて、実感を伴わせること ・身近な事例から科学的な根拠を挙げていくという順序性によって「心の時間」を理解しやすくすること	・自分の考えに対する根拠を示しながら話すようにする。 ・声のものさしを意識して、全員が聞こえるような声で発表するように、適宜声を掛ける。 ・個人の考えをグループで共有し、共通点等を見つけながらまとめていくようにする。 評価場面 【思考・判断・表現①】 〈評価方法〉 ワークシート、ノート、発言 ◎筆者の挙げた事例の意図から、事例の並び方の工夫に気付き、説明している。 →4つの事例によるそれぞれの	1 7

	6 学習のまとめをする	○話の内容が明確になる ような話し方 ○話し手の考えとの比較 ○論の進め方	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 視点から、筆者の意図を考えていくよう助言する。 </div> ○筆者の挙げた事例の意図を考えている。 →色分けした資料を提示し、事例がどんな視点から説明されているかを見つけるよう助言する。 ・児童の言葉を使いながらまとめていく。	3
事例には、それぞれ違った意図があり、それによって読み手に理解してもらいたいから。				
振り返る	7 本時の学習を振り返る。 ※「国語ステップの記入」	○振り返り	・本時の課題に沿って、振り返らせる。 ・「国語ステップ」を用いた自己評価をさせる。	3
	8 次時の学習の予告をする。	○次時の確認	・次時は筆者の主張に対する自分の考えを書くことを予告し、意欲をもたせる。	1

(5) 板書計画

(まとめ)
事例には、それぞれ違った意図があり、それによって読み手に理解してもらいたいから。

(振り返り)

私たちに必要なのは「心の時間」を頭に入れて「時計の時間」を道具として使うという、「時間」と付き合うちえ。

事例④	意図	事例③	意図	事例②	意図	事例①	意図
<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 5px;">話し合いによって出た児童の意見を掲示する。</div>							
<small>「心の時間」に目を向けることが、時間と付き合っていくうえで、とても重要。</small>							

七月十六日 木曜日
時計の時間と心の時間
一川 誠
(課題)
筆者はなぜ複数の事例を挙げているのだろうか。